

優れた日本近世研究著作を顕彰
徳川賞に岩橋氏(松山大名誉教授)



第18回徳川賞を受賞し、賞状を受け取る岩橋勝
松山大名誉教授—3日、東京都台東区

日本近世に関する優れた研究著作を顕彰する「徳川賞」の授与式が3日、東京都台東区の寛永寺であり、「近世貨幣と経済発展」(名古屋大学出版会)で同賞に輝いた岩橋勝松山大名誉教授(79)らに賞状が贈られた。

徳川賞は公益財団法人・徳川記念財団が日本近世に関する研究を奨励し支援するために制定し、今回で18回目。ほかに「近世畿内近国支配論」(塙書房)の村田路人・神戸女子大教授が選ばれた。

岩橋氏は、庶民の生活水準の上昇を示す指標として、銭貨や藩札などの少額貨幣

の流通に着目。東と西の銭相場を分析し、18世紀以降は江戸・上方・地方間でそれほど開きがなく貨幣市場は統合されていたと結論付けた。幕府が鑄造する金銀銅の三貨に占める少額貨幣の比率が19世紀初頭の30%から幕末は約50%だったと数量的に示し、庶民の経済活動の発展を裏付けた。

審査委員長の高埕利彦学習院大名誉教授は「日本近世史研究に大きなインパクトを与え、江戸時代像をより充実させることに寄与した」と講評した。

岩橋氏は「研究者の憧れの賞を受賞し恐縮してい

る。研究を始めて40年以上から刺激を受け、ここまでになるが、速水融先生ら数来られた」と受賞の言葉を量経済史研究会のメンバー述べた。

(武田亮)